

# 第1学年2組 生活科学学習指導案

平成30年2月8日(木) 公開授業Ⅱ

平成30年2月9日(金) 公開授業Ⅰ

会場 1階-② (H 1年生活)

授業者 新潟大学教育学部附属新潟小学校

## 1 単元名 どうぶつとなかよし

## 2 本単元の価値

本単元は、「小学校学習指導要領解説生活編」内容(7)を受けて設定した。

### 内容(7)

動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。

動物飼育にかかわる内容は、植物の栽培とともに、生活科の発足から大切にされている。新学習指導要領でも変わらない。今回は、モルモットを飼育することとした。理由は次の五点である。



- 正確がおとなしく滅多に噛みついたりしないので低学年でも飼育しやすい。
  - 動きもゆったりしていて跳躍力もないので、逃げたりしにくい。ふたのない衣装ケースでも十分に飼育可能。
  - アナフィラキシーの危険性が少ない。
  - 薄明薄暮性だが、飼育者の生活リズムに合わせて活動するようになる。
  - 完全な草食性なのでエサを調達しやすい。
- モルモットを飼育することは、次のような価値がある。

一つめは、生活科の資質・能力が育成できるというところである。子どもは、「もっとなかよくなり」「元気に育てほしい」という思いや願いをもち続けて、世話をする。このような世話活動の繰り返しにより、動物に親しみをもち、大切にしようとする気持ちが養われていく(態度)。このような感情は、間接体験では得ることが難しい。動物飼育が子どもの成長を促してくれるのである。また、飼育を通して、その動物の生命と生活すべてに責任をもつことを学ぶ。毎日のエサやりから始まり、排泄物の処理など様々なことについて手を抜くことができない。子どもは、動物の変化や成長の様子に関心をもちながら働き掛ける(思考力・判断力・表現力)。だからこそ、命あるものの理解を深めていくことができる(知識・技能)。

二つめは、協力し合って共に世話をすることで学ぶことができるところである。モルモットを飼育する場合は、友達と一緒に協力し合いながら世話をすることになる。役割を決めて、動物のために力を合わせて協力し合うことの大切さを学ぶことができるのである(協働性)。友達と一緒に世話をすることによって、互いに気付いたことを話し合うこともできる。互いに認め合う中で、友達の新たなよさに気付くこともできる。

本単元では、デジタルポートフォリオも併用している。具体的には、「ロイロノート」を使って、そのときのモルモットの様子、自分とモルモットとのかかわりを写真や動画で蓄積していくことができるようにした(ツール活用能力)。振り返りの際に活用したり、気付きの交流場面で活用したりする。

## 3 目指す姿

モルモットに親しみをもち接しながら、モルモットとのかかわりを深める子ども

具体的には、モルモットを自分とのかかわりでとらえながら、既知の知識や経験と気付いたこととを関係付けながら考えるという「見方・考え方」を働かせ、様々な資質・能力を発揮しながら、より一層モルモットを大切にしようとする姿。

## 4 働かせる「見方・考え方」

モルモットを自分とのかかわりでとらえながら、既知の知識や経験と気付いたこととを関係付けて考えること(以下:「身近な生活にかかわる見方・考え方」)

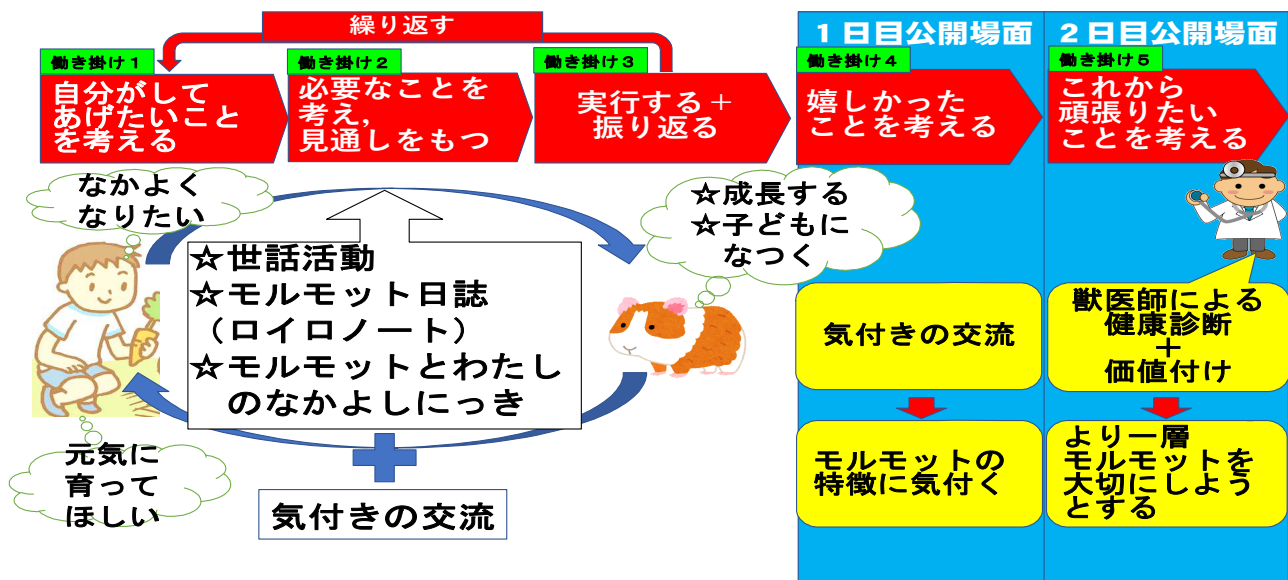
## 5 育成する資質・能力

別紙、「指導計画」参照

## 6 指導の構想

11月に新潟市中央区にあるどうぶつふれあいセンターへ行った。そこでは、モルモットと直接ふれあう体験を行った。振り返りにおいて「モルモットをさわることができて、楽しかった。学校で飼ってみたい」と、発言する子どもがいた。この発言がきっかけとなり、モルモットを飼うことになった。その後、モルモットを飼育する上で大切にしたいことを共有したり、モルモットの飼育方法・飼育道具に関する時間を設定したりした。子どもは、休み時間や家に帰ってから調べ、モルモットが学校に来ることを心待ちにしていた。

準備を進めていく過程で、「モルモットの入学式をしたい」という子どもがいた。その考えを共有すると、「自分たちもしてもらったから、モルモットにもしてあげたい」となった。モルモットの入学式を行う前には、飾りを作ったり司会の練習をしたりした。そして、1月10日にモルモットの入学式を行った。入学式後、どのようなことを頑張りたいかを問うた。子どもは、「モルモットとなかよくなり。そのためにお世話を頑張る」と振り返りの作文に記述した。



**働き掛け1**  
自分がモルモットにしてあげたいことと理由を問う。

一人一人の子どもが思いや願いをもつことができるようにするための働き掛けである。モルモットとなかよくなりたいたいと考えている子どもに、自分がモルモットにしてあげたいことを問う。子どもは、「遊んであげたい」「えさをあげたい」「掃除をしてあげたい」「プレゼントをあげたい」と考える。モルモットを迎えるまでに得た知識や動物飼育の経験などを基にしてかわり方を考えるのである。「身近な生活にかかわる見方・考え方」を働かせている姿である。このとき、理由も問う。子どもは、「図鑑でモルモットはリンゴが好きだと書いてあった。なかよくなるためにリンゴを食べさせたい」などと発言する。してあげたいことを具体的に考えた子どもに次のように働き掛ける。

**働き掛け2**  
モルモットにしてあげたいことを実行するための方法を問う。

一人一人の子どもが見通しをもって活動できるようにするための働き掛けである。モルモットにしてあげたいことを考えた子どもに、実行するための方法を問う。いつ・どのようにするかははっきりさせることで見通しをもって活動することができるからである。子どもは、「モルモットの当番をするときに、お母さんからリンゴを用意してもらって持ってくる」などと発言する。「身近な生活にかかわる見方・考え方」を明確にした子どもに次のように働き掛ける。

**働き掛け3-①**  
モルモットにしてあげたいことを実行する時間を一定期間設定し、できたこととやったことを問う。

思いや願いを実現することができるようにするための働き掛けである。モルモットにしてあげたいことは、「当番のとき」「休み時間」「ホームステイのとき」など、一人一人異なる。そのため、実行する時間は一定期間設定する。最初は、自分があげたえさを食べてくれたことに喜んだり、なでてあげたときの仕草がかわいいと喜んだりする。かかわり続ける内に、好んで食べるえさは何かを考えるようになっていたり、鳴き声とそのときの状況を関係付けて考えたりするようになる。このように、子どもは、モルモットに親しみをもって接したり、変化や成長の様子に関心をもって働き掛けたりする(②思考力・判断力・表現力、③態度)。活動後、できたこととやったことを問う。子どもは、「私が持ってきたリンゴを食べてくれてすごく嬉しい」などと振り返る。子どもは、してあげたいことを実行したことにより、嬉しい気持ちになる。この嬉しさは、自分のかかわりにより反応してくれたから実感できる。つまり、モルモットが活着ているから実感できるのである。嬉しいという気持ちの積み重ねにより、命あるものの理解を深めていく。

**働き掛け3-②**  
モルモットにしてあげたいことを実行してみて気付いたことを交流する場を設定する。

新たなかわり方に気付かせるための働き掛けである。モルモットにしてあげたことは、一人一人異なる。気付いたことを問い、子どもの発言を分類しながら黒板に整理していく。子どもは、自分とは異なるモルモットへのかかわり方を知る。このような交流の場を通して、新たなかわり方を知り、「モルモットのために次は～したい」という新たな思いや願いが一人一人に生まれる(②思考力・判断力・表現力、③態度)。なお、働き掛け1～3-②はセットで繰り返す。繰り返す内に、モルモットは成長し、子どもに懐いていく。諸感覚を通してかかわり続けることにより、モルモットの特徴(生命をもっていること、成長していること、自分のかかわりにより反応してくれること)に無自覚であるが気付いていく。

#### 働き掛け4 (1日目)

モルモットとのかかわりを通して、自分が嬉しかったことを問う。

様々な資質・能力の発揮を促すための働き掛けである。

嬉しかったことを問い、グループで交流する時間を設定する。このときの子どもは、これまでのかかわり方が記されたモルモット日誌や「モルモットとわたしのなかよしにつき」などを基に考える(ツール活用能力)。そして、嬉しかったことを想起して話し合う(協働性)。モルモットにしてあげたいことを実行することを通して、たくさんのモルモットの特徴に無自覚であるが気付いている。友達との交流により、無自覚だったモルモットの特徴が自覚できるのである。

その後、学級全体で嬉しかったことを話し合う時間を設定する。このとき大切なことは、教師が事前にすべての子どもの嬉しさを見取っておくことである。モルモットの特徴に気付いている子どもを意図的に指名し、話し合う時間をコーディネートする。子どもは、これまでの具体的なかかわりを基に考え、モルモットの特徴に気付く(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③態度)。

#### 働き掛け5 (2日目)

獣医師と交流する場を設定し、これから頑張りたいことを問う。



発揮した資質・能力の自覚を促すための働き掛けである。

子どもはモルモットとなかよくなるためにできることを一生懸命に行ってきた。しかし、その結果、元気に成長しているかどうかは判断できない。そこで、モルモットの健康状態を調べてもらい、子どものかかわり方を価値付けてもらうため、担当獣医師の宮川先生(新潟県獣医師会会長)と交流する場を設定する。宮川先生からモルモットを診察してもらい、次のように話してもらう。

モルモットのお父さんとお母さんになって1ヶ月が経ちましたね。お世話のことで分らなかったことや難しかったことはありませんでしたか(子どもに問い掛ける)。今、皆さんが教えてくれたように話し合ったり調べたりしてモルモットのことを考えてお世話し続けてきたのですね。だから、こんなに大きくなったし、モルモットはすごく元気です。頑張りましたね。

子どもは、自分たちのかかわり方に自信をもつ。このような子どもにこれから頑張りたいことを問う。子どもは、これからも続く飼育活動に意欲を高め、より一層モルモットを大切にしようとする。このような一連の学習を経て、モルモットに親しみをもって接しながら、モルモットとのかかわりを深める子どもとなる。

### 7 指導計画 全12時間

別紙「単元カード」参照

### 8 本時の構想<第2日目> 12/12時間(45分授業)

#### (1) 本時のねらい

獣医師とのかかわりによって、自分たちが世話をしているモルモットが健康であることを知る活動を通して、より一層モルモットを大切にしようとするができる。

#### (2) 展開

学習活動と子どもの姿 ☆資質・能力	教師の働き掛け
1 モルモットの健康診断を行い、価値付けてもらう。	<p>○説明 「今日は、そんな皆さんのモルモットが元気かどうか健康診断をするために宮川先生から来ていただきました」【働き掛け5】</p> <p>◎モルモットは元気かどうか調べてもらおう</p> <p>始めに、体の様子を見ていきますよ。目、毛、おしり・耳、足、歯を診ていきますね。 ※体の様子を見て、健康かどうか具体的に話していただく。</p> <p>次は、体重ですよ。体重を毎日計って記録していたのですね。毎日少しずつ増えているのが分かります。前の日より大きく増えたり減ったりする日もありません。順調に成長していますね。健康診断をした結果、今のところ心配はなさそうです。</p>

- ・小屋の掃除が最初は難しかったです。みんなで協力したら早くなりました。
- ・図鑑に載っている野菜をあげてみたら、好きな物と嫌いな物があることが分かりました。みんなで話し合っって別々の物をあげてみたから分かりました。

- ・元気だとは思っていたけど宮川先生に言われて嬉しかった。
- ・今までは元気だったけど、これからも一生懸命にお世話をしないと元気がなくなるといけないからこれからも頑張りたい。

## 2 これから頑張りたいことを考える。

- ・2年生になってもお世話を頑張っって、モルモットがいつまでも元気に過ごせるようにしたい。
- ・僕のお母さんは、僕にいつもご飯を作ってくれる。いつまでも元気でいられるように毎日ご飯が足りなくないかちゃんと見てあげたい。
- ・かまっってほしいときの鳴き声が分かった。その声を出しているときは、なでてあげたりだっこしてあげたりしたい。
- ・モルモットが元気でいられるように、分からないことは自分で調べたり友達と協力したりしてこれからも頑張りたい。

★①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力, ③態度

## 3 これから頑張りたいことをワークシートに記述する。

- ・モルモットとなかよくなるために、何が好きかを自分で考えたり友達と話し合っって考えた。モルモットと前よりもなかよくなれて嬉しかった。そして、宮川先生からモルモットが元気だと言われてよかった。もっともっもモルモットとなかよくなるために、掃除を頑張ったり大好きなリンゴをあげたりしたい。
- ・モルモットのお母さんとしてできることを考えてきた。自分のお母さんが何をしているのかを生活科で調べたりして、モルモットのためにできることを考えてきた。元気に育っってほしいって気持ちでお世話を続けて行くことが一番大事だと思っうから、頑張りたい。
- ・僕は、モルモットが大好きだ。だから、モルモットのために一生懸命に考えっってお世話をしてきた。僕のお世話でぐんぐん育っっていくモルモットを見ているとすごく嬉しくなる。僕もモルモットも嬉しくなるようにこれからもえさをあげたり掃除をしたりすることを頑張りたい。

★①知識・技能, ②思考力・判断力・表現力, ③態度

モルモットのお父さんとお母さんになっって1ヶ月が経ちましたね。お世話のことで分からなかつたことや難しかったことはありませんでしたか(子どもに問い掛ける)。  
**※宮川先生の問い掛けを受けて、授業者が子どもを指名する。**  
 今、皆さんが教えてくれたように話し合っったり調べたりしてモルモットのことを考えっってお世話し続けてきたのですね。だから、こんなに大きくなつたし、モルモットはすごく元気です。頑張りましたね。

○発問  
 「皆さんが育てているモルモットが元気だと聞いてどのように思いましたか」

○発問  
 「今、☆☆さんがこれからもお世話を頑張りたいと言っていましたね。皆さんはこれから頑張りたいことがありますか」

【働き掛け5】

※一人の発言が全体で共有できるように、必要に応じて次のような問い掛けを行う。

- 「どこからそう思っただのですか」
- 「なぜそう思っただのですか」
- 「同じ(似ている)考えの人はいますか」

○指示  
 「これから頑張りたいことをワークシートに書きましよう」

### (3) 評価

より一層モルモットを大切にしようとしているかを発言やワークシートの記述から見取る。